

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 2 報
千葉県農林水産部
平成27年6月17日

幼穂形成期は、各品種とも平年より10日早い

穂肥や病虫害防除は遅れずに

幼穂形成期以降の低温持続時は、湛水管理を

[生育概況]

4月中旬以降、高温多照傾向のため、生育の進みが非常に早くなっています。

「ふさおとめ」「ふさこがね」は、県内の多くの地域で、平年より10日程度早く幼穂形成期を迎えています。

表 1 品種別の生育状況（6月15日現在）

品種	植付時期	平年比 ※			
		生育進度 (幼穂形成期※)	草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	4月20日頃	早い(6月7日)	並	並	並
ふさこがね	4月20日頃	早い(6月9日)	並	並	並
ふさのもち	4月20日頃	早い(6月13日)	低	多い	並

※平年比は過去5年間(2010~2014年)の平均値との比較

※幼穂形成期は、農林総合研究センター(千葉市)4月20日植えのほ場

「コシヒカリ」は葉令の進みは早く、4月20日植えの一部のほ場で、6月15日に幼穂形成期を迎えています。

表 2 品種別の生育状況（6月15日現在）

品種	植付時期	平年比※			
		葉令の進み	草丈	茎数	葉色
コシヒカリ	4月20日頃	早い	やや高い	やや多い	並
	5月1日頃	やや早い	高	並	並
ふさのもち	5月10日頃	並	並	並	並

※平年比は過去5年間(2010~2014年)の平均値との比較

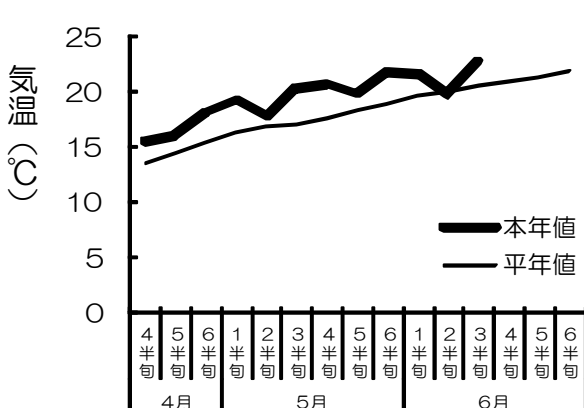


図 1 日平均気温の推移 (アメダス、佐倉)

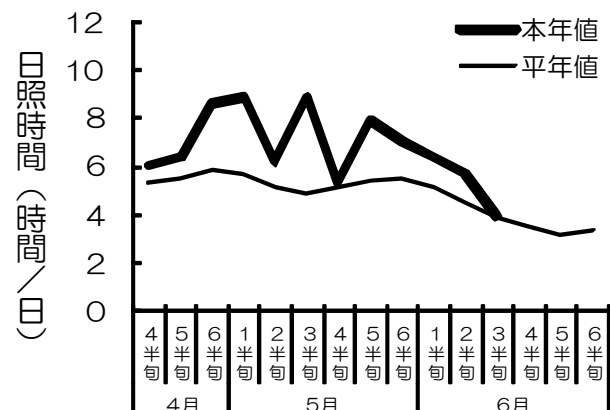


図 2 日照時間の推移 (アメダス、佐倉)

[これからの管理のポイント]

■生育の進みが例年になく早いため、作業計画の見直しを

県内の多くのほ場で、「ふさおとめ」「ふさこがね」の幼穂形成期は、平年と比較して、10日程度早く、また、「コシヒカリ」でも、早いところで幼穂形成期が10日程度早くなりました。

このため、出穂期も早まると予測されます(表3)。穂肥や病害虫防除等の作業が遅れないよう、水稻の生育を確認しながら作業計画を立てましょう。

表 3 品種別の出穂期予測と冷害危険期の予測

品種	植付時期	幼穂形成期 (千葉市)	冷害危険期 予測(月日)	出穂期予測(月日)			
				県北 (成田市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	6月7日	6月18日 頃から	7月6日	7月4日	7月3日	7月6日
ふさこがね	4月20日	6月9日	6月20日 頃から	7月8日	7月6日	7月5日	7月8日
コシヒカリ	4月20日	6月15日	6月26日 頃から	7月14日	7月12日	7月11日	7月14日

※幼穂形成期は、農林総合研究センター(千葉市)4月20日植えのほ場

※冷害危険期は、出穂前15日~10日

※出穂期とは全莖数の40~50%が出穂した日で、出穂期予測は水稻作柄安定対策調査結果から

■「コシヒカリ」の穂肥

○標準施用適期

穂肥施用適期は出穂前18~10日(幼穂長が1cm~8cm)です。「コシヒカリ」の幼穂形成期は平年より10日程度早く、出穂期も同様に早いと予測されますので、ほ場ごとに幼穂長を確認し、表4を参考に適期に穂肥を施用しましょう。

なお、穂肥の施用時期が早いと倒伏や籾数過剰による登熟不良や玄米外観品質低下を招く恐れがあります。

表 4 コシヒカリ(4月20日植え、千葉市)の穂肥施用適期の目安

品種	植付時期	幼穂形成期(農林総合研究センター(千葉市)のほ場)	穂肥施用適期
コシヒカリ	4月20日	6月15日	6月23日から7月1日

○施肥加減等の判断方法

幼穂形成期に莖数が多かったり、葉色が濃かったりする場合は穂肥の減量や施用時期を遅らせる必要があります。診断方法は表5、6を参照してください。

表 5 コシヒカリの幼穂形成期の生育目標

品種	草丈 cm	穂肥施用目標莖数	葉色（カラスケール値）
コシヒカリ	70 以下	430～560(23～30 本/株)	3.5～4.0

※莖数の（ ）内は 30cm×18cm で植え付けされた時の 1 株平均莖数

表 6 幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥・倒伏軽減剤の要否判定

葉色（SPAD 値） ×莖数/m ²	草丈 （cm）	予測される 生育・収量	対策		
			穂肥加減	穂肥時期	倒伏軽減剤
16,000 以下	70cm 未満	籾数が不足しやや減収	増肥、または時期を 2～3 日早める。		×
16,000 ～20,000		目標どおりの生育が期待	標準量※	標準	×
20,000 ～27,000	70～80cm	稈長が伸び、倒伏が心配	標準量※	標準	必要
	75cm 未満	籾数過剰となり、乳白米 の発生が心配	減肥（窒素施用量 1～ 2kg/10a）、 または時期を遅らせる。		×
	75～82cm	稈長が伸び、倒伏が心配	×	×	必要

※穂肥の標準成分量：窒素 砂質土3～4kg、壤質土3kg、房総南部の粘質土2kg（10a 当たり）
加里 3kg（10a 当たり）

<参考>コシヒカリにおけるカラスケール値と SPAD 値の関係

カラスケール値	3	3.5	4	4.5	5
SPAD 値	24.8	28.7	32.6	36.4	40.3

○倒伏軽減対策

表6を参照し、倒伏が懸念される場合は倒伏軽減剤の使用を検討しましょう。

表 7 主な倒伏軽減剤

薬剤名	使用時期/使用回数	10a 当たり散布量	処理方法
ロミカ粒剤	出穂 25～10 日前まで/1 回	2～3kg	湛水散布
スマレクト粒剤	出穂 20～7 日前/1 回	2～3kg	湛水散布
ビビフルフロアブル	出穂 10～2 日前/1 回	75～100ml	茎葉散布

○「ふさおとめ」「ふさこがね」の穂肥

「水稻の生育状況と当面の対策 第1報」（平成27年6月3日）を参考に、穂肥の適期が過ぎていないほ場では、遅れずに穂肥を実施しましょう。

■水管理

○低温時には湛水

気象庁の発表によると、「関東甲信地方では、6月20日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり低くなる確率が30%以上」と発表されました。幼穂形成期以降に日平均気温 20℃以下の低温の持続が予想されるときは、冷害防止のために深水で湛水（保温）しましょう。また、低温が予想される場合でも、穂肥は施用しましょう。

表 8 低温時湛水深の目安

幼穂形成期から冷害危険期まで（出穂 25～16 日前）	湛水深 10cm 程度
冷害危険期（出穂 15～10 日前）	湛水深 20cm 程度

○中干しから出穂後までの水管理

～全量基肥（一発肥料）栽培の場合も水管理は大切です～

基本的な水管理は①～④のとおりです。特に、「③」は自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために必要な技術です。「安全・安心」な米作りのために注意して管理しましょう。

- ① 中干しは強すぎないよう、土が湿って足跡が残る程度
- ② 十分に中干しができたら、出穂 3 週間前までは間断かんがい
- ③ 出穂 3 週間前から出穂 2 週間後までは湛水管理
(幼穂を確認したら、入水を開始する。)
- ④ 出穂 2 週間後から出穂 25 日後までは間断かんがい

■病害虫防除

病害虫発生予報第3号（農林総合研究センター6月10日）によると、主な病害虫の発生量は平年と比較して、いもち病（葉いもち）は「並」、紋枯病は「やや多」、イネクロカメムシは「多」、ヒメトビウンカは「多」と予想されています。

生育が非常に早くなっていますので、農薬の使用に当たっては、収穫前使用基準等の登録内容を良く確認して、適期に防除しましょう。

特に、ヒメトビウンカはイネ縞葉枯病を媒介し、生育後期（分けつ盛期以降）にイネ縞葉枯病に発病すると、生育不良や出穂くみ症状、奇形穂など出穂異常となります。表9の「いもち病・紋枯病・ヒメトビウンカの主な防除薬剤」を参考に防除しましょう。

○いもち病

平均気温 20～25℃で曇雨天が続いて茎や葉の湿っている時間が長いときに感染しやすい条件です。葉いもち予防の粒剤は、発生する前に散布する必要があります。葉に病斑が多数見られるほ場では、予防効果と治療効果を兼ね備えた薬剤を直ちに散布しましょう。

○畦畔雑草の防除（カメムシ防除）

出穂直前の畦畔雑草はカメムシ類の生息場所となるので、出穂2週間前頃までに畦畔雑草を刈取ります。今年は出穂期が早いと予測されますので、遅れないようにしましょう。

■飼料用米等の取組計画書の提出期限が延びました！

取組計画書の提出期限が6月末日から「7月末日」までに1か月間延長されました。本年産においても米価回復の兆しは見ていません。今からでも飼料用米に取り組みむことができますので、最寄りの市町村にお問い合わせください。

■飼料用米の冷害対策

「アキヒカリ」「初星」「夢あおば」「べこあおば」は耐冷性が弱いため、低温の持続が予想されるときは、冷害防止のために深水で湛水（保温）しましょう。

次回の「水稻の生育状況と当面の対策」は、6月26日に発行予定です。

表 9 いもち病・紋枯病・ヒメトビウンカ的主要防除薬剤

薬剤名	病害名	いもち病	紋枯病	ヒメトビウンカ
オリゼメート粒剤		○予防		
キタジンP粒剤		○予防		
コラトップ 粒剤 5/ジャンボ		○予防		
ブイゲット粒剤		○予防		
フジワン粒剤		○予防		
ルーチン粒剤		○予防		
ラブサイド粉剤 DL		○予防		
イモチエース粒剤		○予防・治療		
ダブルカットフロアブル		○予防・治療		
ノンプラス 粉剤 DL/フロアブル		○予防・治療		
ブラシン 粉剤 DL/フロアブル		○予防・治療		
カスミン 粉剤 DL/液剤		○治療		
モンガリット粒剤			○予防	
バシタック水和剤 75			○予防・治療	
バリダシン 粉剤 DL/液剤5			○治療	
モンカット粒剤/フロアブル			○予防・治療	
モンカットファイン粉剤 20DL			○予防・治療	
モンセレン 粉剤 DL/フロアブル			○予防・治療	
スミチオン粉剤 3DL/乳剤				○
バッサ粉剤 3ODL				○
トレボン粒剤/粉剤 DL/EW/乳剤/MC				○
なげこみトレボン				○
MR.ジョーカー粉剤 DL				○
スタークルアルバリン顆粒水溶剤/粒剤/粉剤 DL				○
ダントツ水溶剤/フロアブル/粉剤 DL/粒剤				○
キラップ粒剤/フロアブル				○
パダンバッサ粉剤 DL				○

※農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

イネクロカメムシについては「水稻の生育状況と当面の対策 第1報」（平成27年6月3日）を参考に防除してください。



図3 コシヒカリ(4月20日植え)農林総合研究センター
(千葉市) 6月16日撮影
平年より11日早く、6月15日に幼穂形成期となった。
中干しを終了し、湛水管理を行っている。